

令和3年度動物愛護週間中央行事

2021
どうぶつ
愛護

オンライン シンポジウム



テーマ「私たちがつくるペットとのこれから」



毎年9月20日から26日は、「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条で定められた動物愛護週間です。今年の動物愛護週間中央行事は、「私たちがつくるペットとのこれから」をメインテーマに、ペットが私たちにもたらしてくれることなどを改めて見つめ直し、これからも続いていく人とペットとの多様な関係を考える機会とします。

令和3年9月25日(土) 13:00~16:10
YouTubeにてオンライン配信予定



※こちらの
QRコードから
読み取って
ご覧ください。

開会あいさつ・動物愛護表彰 (13:00~13:20)

- 動物愛護週間ポスターデザイン絵画コンクール
- 日本動物児童文学賞
- 動物愛護に関する標語コンクール
- 全国ペット写真コンテスト
- 動物愛護キャッチコピーコンクール

各団体が開催したコンクールの受賞者と作品を紹介します。

講演 (13:25~15:00) パネルディスカッション (15:10~16:10)

講演

「ペットとの関係

13:25~13:55

ー世界の犬猫の暮らしから考えるー

- 柿沼 美紀氏 日本獣医生命科学大学獣医学部 教授

「適度な距離を!

13:55~14:25

ーペットを守り、自分を守るためにー

- 前田 健氏 国立感染症研究所 獣医学部長

「動物との暮らし方」

14:30~15:00

- 久世 明香氏 麻布大学獣医学部 講師

パネルディスカッション

テーマ「私たちがつくるペットとのこれから」

コーディネーター

- 佐伯 潤氏 帝京科学大学生命環境学部 准教授

パネリスト

- 久世 明香氏 麻布大学獣医学部 講師



片野 ゆか氏
ノンフィクション作家

© 露木聡子



みやぞん氏
タレント

● 柿沼 美紀 かきぬま みき

日本獣医生命科学大学獣医学部 比較発達心理学教室 教授

プロフィール・経歴

公認心理師、文学博士、動物介在教育・療法学会理事長

International Society of Anthrozoology 理事、国立青少年教育振興機構監事

米国 Northwestern 大学卒業、筑波大学修士課程修了、白百合女子大学博士課程満期退学。

専門は比較発達心理学、子どもの発達と動物の関係など。動物関係の著書は「人と動物の関係の学び方」(共著)、「ペットと社会」(共著)、「人間動物関係論」(共著)など。論文は「初等科教育における犬を用いた動物愛護教育プログラム実践」、「飼い主との分離がイヌの行動的、生理的反応に及ぼす影響 年齢による変化」(共著)、「馬との直接的体験が子どもに及ぼす影響の検討 - 馬描画採点システムを用いた試み」(共著)などがある。



講演 「ペットとの関係ー世界の犬猫の暮らしから考えるー」

日本で暮らす私たちの周りにはたくさんの犬や猫がいます。犬や猫との暮らしは古くから今日まで続いています。その関係性は時代によって異なっていたようです。20 世紀末のペットブーム以降、日本では犬も猫も室内で家族の一員として暮らすようになりました。21 世紀に入ると災害時のペットの同行避難も認められるようになり、犬や猫が家やその周辺で生活していた時代から、人と一緒に社会の中で行動する存在へと変わってきました。現在地球上の犬の 7-8 割は飼い主がいないと言われています。その多くは人との距離を一定に保ちながら基本的には人に依存して生活しています。日本の人気犬種と欧米の人気犬種は異なります。特にそのサイズの違いははっきりしています。日本における犬と人の関係は、世界の視点から見ると意外と独特なものかもしれません。皆さんと一緒に地球上の犬や猫に目を向け、日本のこれからのペットとの関係を考えてみましょう。

● 前田 健 まえだ けん

国立感染症研究所 獣医科学部長

プロフィール・経歴

獣医師、博士(獣医学)

1996年東京大学農学生命科学研究科修了、山口大学農学部獣医学科獣医微生物学教室

助教授(准教授)、2009年教授、2019年国立感染症研究所獣医科学部

学部学生時代より一貫して、愛玩動物・野生動物の感染症の研究に従事している。

近年は特に動物由来感染症の研究に重点を置いて研究を行っており、SFTS ウイルス、SARS-CoV-2、B ウイルス、狂犬病など様々な愛玩動物由来感染症の対策に貢献すべく研究を行っている。



講演 「適度な距離を！ーペットを守り、自分を守るためにー」

我々に様々な病気を引き起こす微生物は、動物とヒトの間を行き来しています。ヒトのインフルエンザウイルスがフェレットに感染して重篤な症状をもたらす可能性があり、コロナウイルスも飼い主からペットに感染する可能性があります。また、マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスに感染すると、イヌやネコが重い病気になるだけでなく、病気になったイヌやネコから飼い主や獣医師が感染して重い病気になることも知られています。

飼い主はペットが病気にならないために、またペットから病気に感染しないために、ペットと適切な距離を保つことが重要です。本講演をとおしてリスクが高い行動を知り、日常で実践していただければと思います。

● 久世 明香 くぜ さやか

麻布大学獣医学部 講師

プロフィール・経歴

麻布大学 獣医学部動物応用科学科 伴侶動物学研究室 講師
獣医師、獣医学博士、獣医行動診療科認定医



2005 年東京大学農学部獣医学専修卒業後、同大学大学院博士課程に進学、獣医動物行動学研究室に所属し、2008 年特任助教に着任。2010 年博士号（獣医学）、2013 年獣医行動診療科認定医取得
2014 年より東京大学附属動物医療センターおよび AC プラザ荻谷動物病院勤務
2018 年より麻布大学獣医学部動物応用科学科にて講師を務める。

講演「動物との暮らし方」

犬や猫と暮らす中で、楽しさや癒しを得られる一方で、動物の行動に困ることもあるでしょう。このような問題行動は、動物によってもご家庭によっても様々です。ご家族の生活スタイルの変化によって、新たな問題が生じる場合もありますし、実は病気のサインということもあります。ひどくなると対応が難しくなり、せっかくの動物との暮らしが辛いものになってしまうこともありますので、早い段階での対応が望まれます。そこで、獣医行動学の視点から、問題行動はどうやって起こるのか？どう向き合えばよいのか？予防したり備えたりする方法はあるのか？についてご紹介します。動物との暮らしが、より充実したものになるためのヒントにしていいただければ幸いです。

- パネルディスカッション -



「私たちがつくるペットとのこれから」



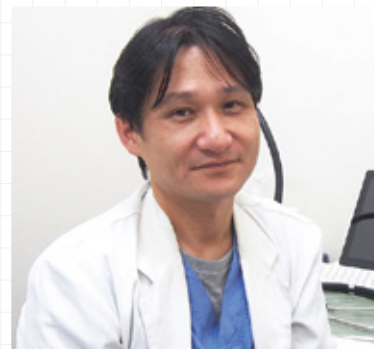
コーディネーター

● 佐伯 潤 さえき じゅん

帝京科学大学生命環境学部 准教授

プロフィール・経歴

帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科准教授
(公社) 日本獣医師会 理事 (動物福祉愛護職域担当)
(動物福祉愛護委員会委員長、VMAT 養成カリキュラム等検討小委員会委員長)
(公社) 大阪府獣医師会 会長
災害動物医療研究会代表幹事 くずのは動物病院院長 帝京科学大学附属動物病院院長



長年にわたって大阪で動物病院を開業し小動物臨床に携わりながら、動物看護師教育や資格認定にも関わっている。
また、災害時の動物救護対策、動物虐待に対する獣医学的評価、人と動物の共通感染症を研究テーマとして、制度の確立や調査研究をおこなっており、2019 年からは帝京科学大学で動物外科看護学や動物福祉学に関連する科目を教えている。

- パネルディスカッション -



「私たちがつくるペットとのこれから」



パネリスト

● 片野 ゆか かたの ゆか

ノンフィクション作家

『愛犬王 平岩米吉伝』『北里大学獣医学部 犬部!』など

プロフィール・経歴

1966年東京都生まれ。大学卒業後、求人広告誌の営業職を経て文筆業に。

2005年『愛犬王 平岩米吉伝』で第12回小学館ノンフィクション大賞受賞。

『北里大学獣医学部 犬部!』はコミック化で話題になり、2021年7月に映画化された。

ほか著書に『ポチのひみつ』『アジワン〜ゆるりアジアで犬に会う』『ゼロ! 熊本市動物愛護センター 10年の闘い』『動物翻訳家』『保健所犬の飼い主になる前に知っておきたいこと』『旅はワン連れ』『平成犬バカ編集部』など。子ども時代から犬好き。現在は、元保護犬の愛犬マドと暮らす。



© 露木聡子



パネリスト

● みやぞん

タレント

プロフィール・経歴

東京都足立区生まれ、タレント

2009年11月に幼馴染のあらぼんと

「ANZEN 漫才」を結成。

現在の飼い犬ラブちゃんとの出会いは

11年前にさかのぼる。

捨てられていたところを保護し、それ以後家族の一員として二人三脚で生活している。

ワンちゃんとの人生を最優先で日々楽しんでいる。

